



正月帰省

松原美智子

「なつかしい熊本へやっと帰ってこられた」そう思うと長旅の疲れも忘れて胸のときめく思いでした。

けどそんな期待とは逆に、わずか十ヶ月しかたっていないのに、私はまるで知らないところにでもきたような錯覚に陥ってしまいました。小さい頃、泥にまみれて走りまわった道は舗装され、キズだらけになって遊んだ空地には何軒か家が建っていました。通る人も知らない人ばかり。あんなに熊本へ帰るのを楽しみにしていたのに……。

あこがれの故郷を失ったような寂しい思いで玄関の前に立つと、何の連絡もなく帰ってきた私を見て、母がとびついてきました。その時初めて帰郷の喜びが実感となって、私はこみあげる涙を押えることができませんでした。

クラスメートは学生時代とは違って、きれいな化粧をして現れました。中にはもう結婚した人もいてびっくり。学生時代の思い出、近況報告、話がいっぱいありました。

いつもの生活に戻ってみると、やっぱり故郷はいいなあと思います。工業地帯の名古屋とは違って、熊本は空が澄み、空気がおいしかった。窓から見える阿蘇の山なみも素晴らしかった。どうかあのきれいな自然を大切にしたいと思えます。

短い冬休みだったけど、熊本へ帰ってよかった。故郷はこんなにもいいものかと、いましみじみ正月帰省の喜びをかみしめています。

愛知県海部郡甚目寺町桑丸八
日東毛織(株)勤務
昭和四十七年・熊本中央女子高校卒



カメラ深訪
ふるさとの心
満願寺温泉
(阿蘇郡南小国町)